

**安井てつ(哲子)** **教育家。新渡戸稲造の要請で東京女子大学創立責任者となり、学長になると、左翼学生を弾圧から守った。**

やすいてつ

初の日刊新聞1870 = 東京駒込の旧古河藩主邸内で、旧藩士の長女に生まれる。

**明治6年政変** 1873 = 3歳：

武士気質の家庭に育つ。

琉球処分・・・1879 = **9歳**：

誠之小学校から、

**明治14年政変** 1881 = 11歳：

東京女子師範学校付属女学校、

女子師範学校を経て、

初の対等条約1888 = **18歳**：

**帝国憲法発布** 1889 = 19歳：

帝国議会始・・・1890 = 20歳： **学制で変わった女子高等師範学校の第一回卒業生となり、直ちに母校助教諭・付属小学校訓導となる。**

大本教・・・1892 = 22歳：岩手県尋常師範学校へ移ったが、

**日清戦争始**・1894 = 24歳：母校に復帰。

白馬会・・・1896 = 26歳： **突然家政学・教育学研究のための留学を命じられ、津田梅子に英語を習って、**

八幡製鉄始・1897 = **27歳**： **イギリスに出発、**

**服従よりも信頼関係を尊ぶ社会に感服、キリスト教の良さを知って、**

**ビアノ国産化**・1900 = 30歳： **帰国し、母校の教授兼舎監となる一方、海老名弾正から受洗。**

**日露戦争始**・1904 = 34歳： **シヤム国政府の招聘を受け、シヤム皇后女学校教育主任となり、**

**日露戦争終**・1905 = 35歳：

満鉄発足・・・1906 = **36歳**：

**韓国反日暴動** 1907 = 37歳： **終了後、イギリスを再訪して、ウェールズ大学に学び、**

**アラビ** 創刊・1908 = 38歳： **帰国。学習院および母校の学監となる。**

**明治天皇没**・1912 = 42歳：

21ヶ条要求・1915 = **45歳**：

**ロシア革命**・1917 = 47歳： **新渡戸稲造に要請され、海外の布教団体の後援による東京女子大学設置理事に就任、**

本格政党内閣1918 = 48歳： **\*東京女子大学(専門学校として認可)が開校すると、学長新渡戸稲造のもとで、学監となり、実質的責任者として、その基礎をつくって行く。**

**ベルサイユ条約**・1919 = 49歳：新渡戸・後藤新平とともに、欧米を視察し、

**原敬首相暗殺** 1921 = 51歳：

**関東大震災**・1923 = 53歳： **\*新渡戸のあとをうけて、第2代学長になる。**

護憲三派圧勝1924 = **54歳**：荻窪の新校舎(現在の場所)に移る。

その進歩的な教育観は、学長就任に際して語った「キリスト教主義的人格教育の重視、体育の重視、リベラル・カレッジとしての学園づくり、学究生活と社交的生活の調和」などの抱負によく示されている。

共産党事件・1928 = 58歳： **以降、左翼弾圧で学生が検挙され批判を浴びるが、個人の思想選択を尊重し、退学学生をむしろ保護。**

**満州事変**・・・1931 = 61歳：

国際連盟脱退1933 = **63歳**：

帝人疑獄事件1934 = 64歳：満州と朝鮮を旅行し、大連・旅順・奉天などで講演。

**日中戦争始**・1937 = 67歳：

大政翼賛会・1940 = 70歳： **\*退職し、名誉学長。**

**日米開戦**・・・1941 = 71歳：

・・・1942 = **72歳**：東洋英和高等女学校校長事務取扱となり、

年金+総武装 1944 = 74歳：東洋英和女学院院長代理となったが、 **交通事故で健康を害し、**

**敗戦**・・・1945 = 75歳：辞任後、荻窪衛生病院で **没した。**  
東京女子大学の制度としての大学昇格はその後の1948年である。